

情報ボックス

令和元年度第5回目の情報ボックスです。今回は「認知教材」についてお伝えします。

認知とは？

自分のことや自分を取り巻く環境について、知識や記憶と照らし合わせて理解していく過程のことをいいます。私たちの周りには光、音、におい等色々な刺激があります。それらは、眼球、耳や皮膚等の様々な感覚器官を通して、どのような刺激なのか受容され、脳で情報として処理されることにより、周囲の様子をとらえたり、自分自身の身体状態を把握したりします。その過程を認知といいます。

今回は、発達の初期に当たる

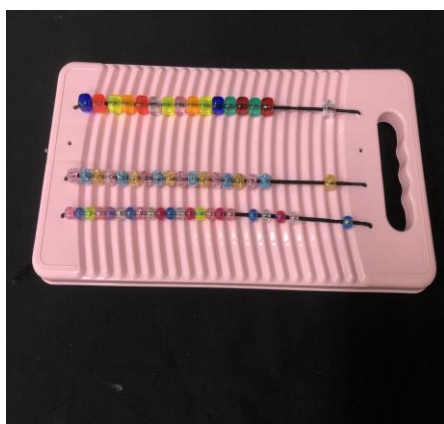
感覚優位で手や目を使えるよう、また簡単な因果関係に気づけるようにする段階

形・色・大きさ・位置の見分け、見比べをする段階の教材を中心に紹介します。

簡単な因果関係理解

(触ったり、動かしたりすると音が鳴る・動く教材)

ガチャガチャ洗濯板



触れるだけで音が出やすく、ビーズの動きやゴムの動き楽しむことができる。

ボールを入れると音がする。

球入れ



因果関係理解

(楽器、スイッチを押すと動く・音が鳴るなどの教材)

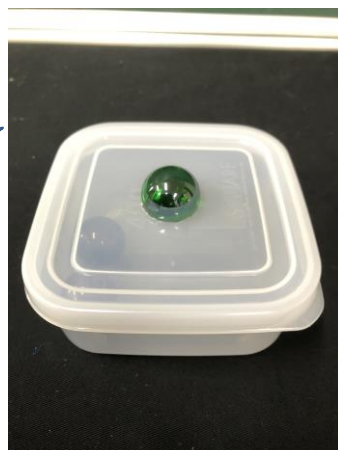
スイッチ操作



スイッチを押すとぬいぐるみが動く。

穴の位置を探索し、玉を穴の中に落とす。
穴の大小により押し込む際指の力が必要になる。

ビー玉落とし



運動の方向づけの教材・手先の教材

(始点と終点に分かる・穴などにボールを入れる教材)

方向づけ



棒を持って、左右に動かす。始点、終点の理解を促す。

コインの形と穴の形を見比べて入れる。

コイン入れ



様々な弁別

(型はめ・マッチング・パズルなどの教材)

型はめ



形を認識して、弁別する力を育てる。

絵の全体像を想像したりぴったり合わせたりする必要がある。(細部視知覚)

マッチング (絵あわせ)



今年度の情報ボックスでは「西淀川支援学校にある教材・教具等の使用方法や活用例など」を中心お伝えしてきました。地域の学校で何かお困りの際は、本校までいつでもご相談ください。